人権コラム　心、豊かに

◆“食品ロス”を“支援活動”に

環境分野で初のノーベル平和賞を受賞したケニア人女性、ワンガリ・マータイさんが 2005 年に来日した際、感銘を受けた言葉の一つに「もったいない」という日本語がありました。マータイさんはこの言葉こそ「ごみの削減」と「再利用」、「再資源化」に対する尊敬の念が込められた言葉であるとの想いから、国連において「ＭＯＴＴＡＩＮＡＩ」を提唱したことで、環境を守る活動を意味する世界共通語になっています。

国連によると世界では毎年、食料生産量の３分の１に当たる 13 億トンを廃棄している一方で、９人に１人が飢えに苦しんでいると言われています。

日本国内においては、食料消費全体の３割にあたる 2842 万トンの食料が廃棄され、うち食品ロス（まだ食べられるのに廃棄されている食べ物）が、約 646 万トンもあります。

そして更に、所得の低い貧困世帯の割合が増加傾向にあり、６人に１人の割合で貧困世帯の子供がいるという状況です。

このような状況もあり、2000 年以降日本においても「フードバンク活動」が全国に広まっています。この活動は、食品ロスのような捨てられている食品のうち品質に問題のない食品を国内の十分な食事をとることのできない貧困世帯やその子供たちへの支援につなぐことがねらいです。

食品ロスの発生源は、家庭から出るものが 44%、残り 56%が食品メーカーや小売店からの期限切れの廃棄食品が主な原因であると考えられています。

県内においても、組織や企業が連携し、2016 年「フードバンクおおいた」が設立され、企業や市民からの寄贈を受け付けるとともに、集められた食料は“緊急食料支援”や“子ども食堂などへの支援”、“災害被災者の支援”等に活用されています。

この活動のように、助け合う仕組みづくりを大切にし、より安心して暮らせる心豊かな街を目指していきましょう。

「広報ひた」　平成 30 年 12 月 1 日号掲載